修学旅行新聞

三年二組

安形[redacted]

法隆寺

法隆寺は飛鳥時代の姿を現在に伝える世界最古の木造建築として広く知られています。その創建の由来は『金堂』の東の間に安置されている『薬師如来像』の光背銘や『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』(747)の縁起文によって知ることができます。それによりますと、用明天皇が自らのご病気の平癒を祈って寺と仏像を造ることを誓願されましたが、その実現をみないままに崩御されたといいます。そこで推古天皇と聖徳太子が用明天皇のご遺願を継いで推古15年(607)に寺とその本尊薬師如来を造られたのが今の法隆寺(斑鳩寺とも呼ばれています)であると伝えています。

東大寺

東大寺は、奈良時代の中頃に聖武天皇の願によって創建された官寺として建てられたために、大規模な伽藍が営まれた。天下泰平、万民豊楽などを祈願する道場と教理研究所を兼ねる寺で、多くの学僧を輩出した。開山は良弁僧正。現在は華厳宗の大本山である。本尊の盧舎那仏はやるしゃなぶつとも呼ばれ、華厳経の教主とされる。この名は梵語の別名で世界を照らす仏、光り輝く仏の意味である。像は青銅で鋳造され鍍金が施されていた。天平勝宝四年(752)に盛大な開眼供養が行われた。その後度々焼失を繰り返し、その都度修理されている。両手は桃山時代頃部は江戸時代のもの。大仏殿は創建以来、治承四年(1180)と永禄十年(1567)に兵火に遭っていて、今の建物は江戸時代に建て直された二度目のものである。横幅が約三分の二縮小されているが、それでも木造建造物としては世界一の規模を誇っている。

龍安寺

龍安寺には、石庭というものがある。石庭は東西25メートル南北10メートルの空間に白砂を敷き詰め、15個の石を配したものです。極端なまでに象徴化された石庭の意味は、謎に包まれており、見る人の自由な解釈に委ねられています。室町末期(1500年ごろ)特芳禅傑などの優れた禅僧によって作庭されたと伝えられています。

また、石庭は菜種油を混ぜた土で造られた油土塀によって囲まれ、時の経過による油の変化が独特な風合いを醸し出しています。ほかにもいろいろなものがあります。

二条城

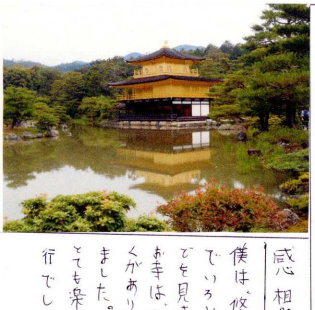
二条城は1603年(慶長8年)徳川幕府初代将軍家康が京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所として造営し、三代将軍家光が後水尾天皇の行幸にあわせて、1626年に改修したもので絵画、彫刻建築に、桃山から江戸への時代の移り変わりを見ることができます。1867年十五代将軍慶喜の大政奉還により、二条城は朝廷のものとなり、1884年離宮となりました。その後1939年に京都市に下賜され、1994年にはユネスコの世界遺産に登録されました。

三十三間堂

七十人余りの造仏師が一体一体心をこめて創りあげた芸術性の高い仏像です。どれもほぼ人間の高さくらいで165センチ。三十三間堂に詰めたらいろいろ故人に会えるという信仰がありますが、この十体のお顔にふとなつかしいあのおもかげを思い出すかもしれません。

十体十手観音像

金閣寺



金閣寺↳

お釈迦様の舎利をまつった舎利殿金閣が特に知られ、金閣寺とはいえ、正式には鹿苑寺と言い臨済宗相国寺派の禅寺です。

この他は鎌倉時代に西園寺公経の別荘北山第が在りました。足利三代将軍義満が気に入り、応永4年(1397年)に西園寺家から譲り受け、山荘「北山殿」を造りました。金閣は中心となった建築物は極楽浄土をこの世に現したと言われ、後小松天皇(禅師の父)をお招きしたりしました。室町幕府は中国(明国)との交易を盛んに行い、北山文化の基地として発展しました。

義満没後、遺言により夢窓国師を開山(初代の住職)とし、義満の法号、鹿苑院殿から二字をとり鹿苑寺と名づけられました。1994年世界文化遺産に登録されました。

感想

僕は修学旅行でいろいろな事なを見ました。お寺はとてもはくりょくがあり歴史を感じました。とても楽しい修学旅行でした。